

解答例

一

問 1 a 官僚 b 起業 c 誘致 d 伴 e 対価

問 2 筆者は、日本の国際観光客到着数の増加率が高く、12年から17年にかけて3倍以上になったという情報を重視している。この情報を重視するのは、世界の物価が上がる一方で日本は物価が安い国になったことを、筆者が問題にしようとしているからである。

問 3 観光客にとっては、良いものが安く手に入るという意味において「天国」であるが、労働者にとっては長時間働いても労働に見合う賃金が得られないという意味において「地獄」であるということをおうとしている。

問 4 観光客が増えたことは日本が「安くておいしい国」になったことによるが、それが可能になったのは途上国からの苦学生が「働ける国」として低賃金で働いているからであるという相関関係を説明するために、並べとりあげている。

問 5 日本の人々は良いサービスを安く提供する労働に耐えながら、安くて良いサービスを消費することによってストレスを晴らすような生き方をしており、そういう日本社会のあり方が、日本に来る外国人のあり方に映し出されていると主張している。

二

問 6 ① 少しも ⑥ かわいがりなさる

問 7 ② あく ③ みゆ ⑧ こころう

問 8 この世の人とも思えない美しさ、琴などを少し教えるだけで上手に弾けるようになったこと、何事も一度で身に付け、師に二度と質問することがなかったこと、笛などを華やかに趣深く吹いたこと、一日に書物は二、三巻、琴や笛の曲は五、六曲も習得したこと、などの要素をまとめれば、可。

問 9

⑤ ひたすらこの子を大切に思いになるばかりである。
⑦ 何年もの間、居場所も存じませんでした。先年、見つけ出しました。

問 10
E

三
問 11 この木は、役に立たないので、その寿命を全うすることができたのだ。

問 12 友人（旧知・旧友など）

問 13 （書き下し文） 豎子（じゅし）に命（めい）じて雁（がん）を殺（ころ）して之（これ）を烹（に）しむ
（現代語訳） 子供の召使いに命令して雁（ガチョウ）を殺して煮させた（料理させた）

問 14 周^ハ将^ニ処^{ラント}下^下夫^ノ材^ト与^ニ不^一材^一之^ニ間^上

問 15 材と不材との間は、道に似てはいるが、それは真の道ではなく、様々なわずらいを免れてはいない。それ
に対して、道德（無為自然の道とその働き）に乗って、浮かび漂う（無我無心に自然に身を任せる）もの（こ
と）は、真の道を得たものであり、あらゆるわずらいを免れている。